

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>・より良く生きるための基礎・基本の習得(学力、社会性、人間性)</p> <p>(1) 家庭や地域社会との連携を強化し、21世紀の新生洛東高校として信頼される学校づくりに努め、次代の社会を担う人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 個人の責任と義務を尊重し、道徳性の高い行動力のある人間の育成に努める。</p> <p>(3) 生涯にわたって学ぶための基礎・基本を習得し、社会の変化に対応できる能力や創造力に富む豊かな人間性や社会性の育成に努める。</p> <p>(4) 勤労とボランティア精神の資質を養い、人権を尊重し、社会の一員としての自覚と行動ができる人間の育成に努める。</p>		<p>(1) 授業に対するアンケートにおいて、「授業によって学力が身についた」と答えた生徒が全体の87%であったことは、多様なニーズに応えるための様々な取組の成果である。一方、「日常的に家庭学習をしている」と答えた生徒は52%と低く、学力の定着、伸長に向けた大きな課題である。</p> <p>(2) 月初めの2日間を「高校生活見直そう日」として、全教職員とPTA委員が校門にてあいさつと身だしなみ指導を行い、注意喚起するとともに粘り強くいねいに指導することができた。特に、頭髮、装飾品の預かり指導については成果が見られたが、校外での身だしなみやマナー向上については今後の課題である。</p> <p>(3) 学年の各段階の課題に応じた進路の取組を行い、就職は堅調であったが大学合格者数は減少した。今後、キャリア教育を中心とした3年間を見据えた体系的なカリキュラムになるよう改善していく必要がある。</p> <p>(4) 支援を必要とする生徒の情報を教職員が共有するとともに、共通理解を深め配慮することができた。カウンセリングを必要とする生徒・保護者が多く、スクールカウンセラーの時間不足が課題である。</p> <p>(5) 本校の特色ある科目や取組を広報するため、ホームページの更新、中学校訪問、学校説明会を積極的に行い、情報発信に努めた。結果、多くの中学生や保護者に本校について広報することができた。</p>	<p>(1) 学力の課題把握に努め、教科を中心として指導方法や授業改善、新学習指導要領や高大接続改革に関する研究・研修を行い、生徒の学力を伸ばす。</p> <p>(2) 生徒の将来を見据えたキャリア教育を念頭に計画的な教育活動を行い、個々の希望に応じた進路の実現に努める。</p> <p>(3) 身だしなみやあいさつを中心とした基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせ、人権を尊重し、ルールを遵守する社会に通じる力を育てる。</p> <p>(4) 行事や部活動、ボランティア活動等の教育活動や特色ある科目をととして、地域とつながり、目標に向けて協同して取り組む力や社会の変化に対応できる能力の育成に努める。</p> <p>(5) 日常的な美化活動をととして情操豊かな生徒を育てる。</p> <p>(6) 安心・安全に学校生活を送ることができる環境を整える。</p> <p>(7) 特別な支援を要する生徒個々の教育的ニーズに応じて、適切な教育的支援を行う。</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
			中間	最終	総合
教育課程 学習指導 (教務部)	新学習指導要領に基づく教育課程の編成について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 特にプログレスコースにおいては高大接続改革を視野に入れた教育課程の編成を行う。 総合的な学習の時間について、キャリア教育を主体とする内容になるよう検討する。 			
	年間行事計画の適切な編成と実施	年間行事計画の編成において、各部・教科の意見を集約する機会を設け、意見をしっかりと反映することで内容の充実を図る。			
	授業の質向上および、生徒の基礎学力定着を図る。	観点別評価の視点を踏まえた授業計画を作成し、評価・授業の改善が行えるよう情報提供や研修・交流の機会を設ける。			
特色推進 広報活動 (総務企画部)	中学生・保護者・地域に本校教育活動が理解されるよう、積極的な広報活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開および説明会、個別相談会、広報紙、ホームページなどにより本校の教育活動をよりタイムリーに情報を発信する。 中学校の進路学習に伴う、中学生の受入や本校教員の派遣を行う。 			
	生徒と教職員との信頼関係に基づいた好ましい人間関係を確立し、家庭や地域社会との連携を密にする。問題行動や非行の防止に向けて、自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整えて学校生活を送るため、頭髮、服装、装身具の指導を行う。女子はスカートの上下に刺繍が入っているので、毎朝の校門指導だけでなく、月初めに高校生活見直そう日を設定し、指導機会を増やすことで加工や変形を許さないようにする。指導については全体に粘り強く行い、個別では学年部(担任)や家庭と連携して指導を行う。 生徒指導部より定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高め社会性を育成する。 			
進路指導 (進路指導部)	学校紹介による就職内定率100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の就職制度を理解させる。卒業に向けて学習に全力で取り組ませる。 社会人としてのマナーを身につけさせるため、問題集の活用やロールプレイングでの実践を繰り返し練習させ、実社会での対応を目指す。 面接指導を徹底する。入退出動作の反復練習、文で答える姿勢、言葉のキャッチボールができるまで練習させる。また、社会人の面接官を招き、本番ムードでの面接練習を設定する。 			
	進学希望者の希望実現率100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 進路別・分野別説明会を実施し、学校・入試方式ごとに適切な情報の提供を行い、進路に対する意識を高め、希望進路の達成を促す。 学年部と連携して学力実態等の情報共有を図り、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。 AO入試に対応できるよう、志望理由書き方講座、小論文説明会・模試を実施する。生徒個人に対しても小論文指導や模擬面接を実施する。 大学入試改革に備え研修会を実施し、情報の収集と提供を図る。 生徒の実態に合わせた適切な進学補習講座を設定する。志望理由書講座・面接対策講座を複数開講し、進学に対する意識を高める。また、受講率を増加させるとともに、継続して受講する生徒の増加を目指す。 			
	学校保健 学校安全教育 特別支援 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議・教職員研修等を活用し、特別な支援を要する生徒に対して、教職員間の連携を密にして組織的な支援を行う。 スクールカウンセラー制度を活用して課題を抱える生徒の援助を行う。 身体的にハンディを持つ生徒への共通理解と支援を充実させる。 			
読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚部)	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書構成の適正化を進め、充実を図る。魅力的な図書を紹介する企画や読書啓発のための広報活動を積極的に行うなど利用者に届く方策を探る。 教科と連携を図りながら、教科学習において、生徒の学習支援を行う。 視聴覚機器を活用し、授業の利便を図る。 			
	施設・設備の維持・安全管理をはかる。	「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対処を行う。			
	文書管理の徹底と簡素化を図り、迅速・正確な情報伝達と個人情報管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 文書の保存・廃棄等文書取扱規程に基づく適切な文書処理を行う。 通知・通達等校内外の重要な情報については、速やかに伝達するとともに情報の管理を徹底する。 			
教育環境 整備 (事務部)	家庭や地域社会、関係諸機関との連携を密にし、適切な対応を行う。	保護者や地域の方、外部からの電話の問い合わせ及び来校された方に対し、丁寧にわかりやすく対応する。			
	特色ある教育活動や広報活動等の実施のため学校予算の効果的執行を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。 節電等呼びかけ、光熱水費の削減に取り組み、使用量前年度比3%減を目指す。 			
	生徒が安心して学校生活を送り、自分の進路実現に向けて取り組むことができるよう支援する。	経済的理由によって就・修学、進学・就職が実現できないということが生じないよう、各種支援制度について生徒・保護者・教職員に周知し、必要な場合の請求漏れを防ぐ。			
第1学年部	学習及び特別活動に積極的に取り組みながら、個人及び集団の能力を効率よく伸ばす。また、互いの人格をリスペクトし、集団のルールを守ることを尊重させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間ゼロの日を無くすため、教科と連携し小テスト及び学年でショート学習を実施する。定期テストに真面目に取り組む集団を育成する。漢字・英語検定等の修得を視野に入れ、学年部から長期休業中の課題を与え、取り組ませる。 特別活動に積極的に参加させる。学校行事に生徒主体で取り組み、クラス・学年の団結を高める。部活動に未加入な生徒にボランティア活動等への参加を促す。 集団のルールを守ることが自分自身と他人を守ることと位置づける。人権守り、安全を確保するため、携帯電話を正しく使う指導をする。進路の選択肢を広げるために、身だしなみを整える指導をする。 			
	落ち着いた高校生活を送れるよう、生活面について、律する心を育てる。それと共に、卒業後の進路を見据えた行動がとれるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導、特に女子のスカートや化粧について、生徒指導部と連携し指導する。 学校運動会生徒に対し、原則として月毎に指導する。 学習習慣定着のため、教科と連携し、日々の課題・小テストなどに真面目に取り組むよう指導する。 「語彙・読解力検定」準2級受験(全員受験)にあたり、教科と連携し、合格を目指す。 			
	授業規律を確保するとともに、学習習慣を身につけさせ、学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学校での授業を基本に、教室整備、机上整理や私語の少ない環境の中でそれぞれの進路に応じた学習指導を行う。 自学自習を目指し、学習室の利用、および家庭学習の啓発に努める。 			
第3学年部	自己及び他者を大切に、規範意識の向上と自治的な力を付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみをめ学校生活を送るにあたり、ものごとの正しい判断基準を身に付けさせる。 文化祭などの学校行事を通じて、集団を意識させるとともに、自ら考え行動する力、評価する力を付けさせる。 			
	一人ひとりの希望進路を実現させる。	進路実現に必要な情報を適切な時期に提供するとともに、進路実現に向けた集団作りと、個別の指導・面談を状況に応じ随時行う。			
	学校関係者評価委員会による評価				
次年度に向けた改善の方向性					